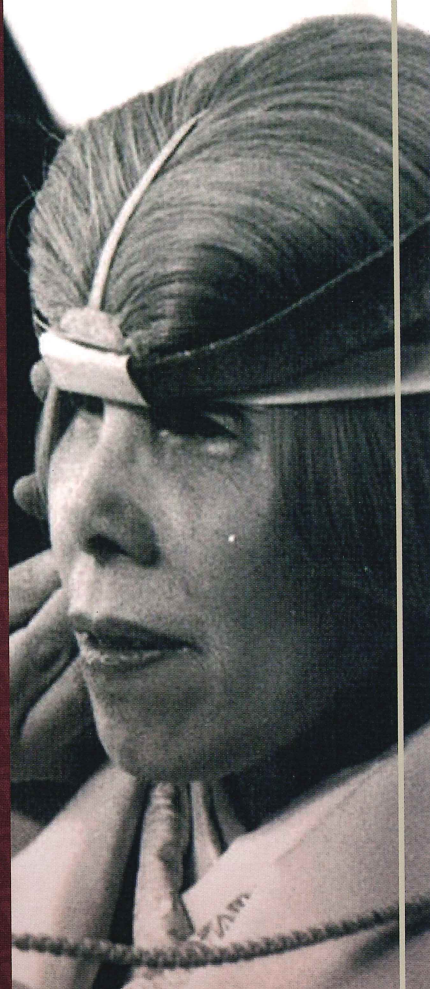
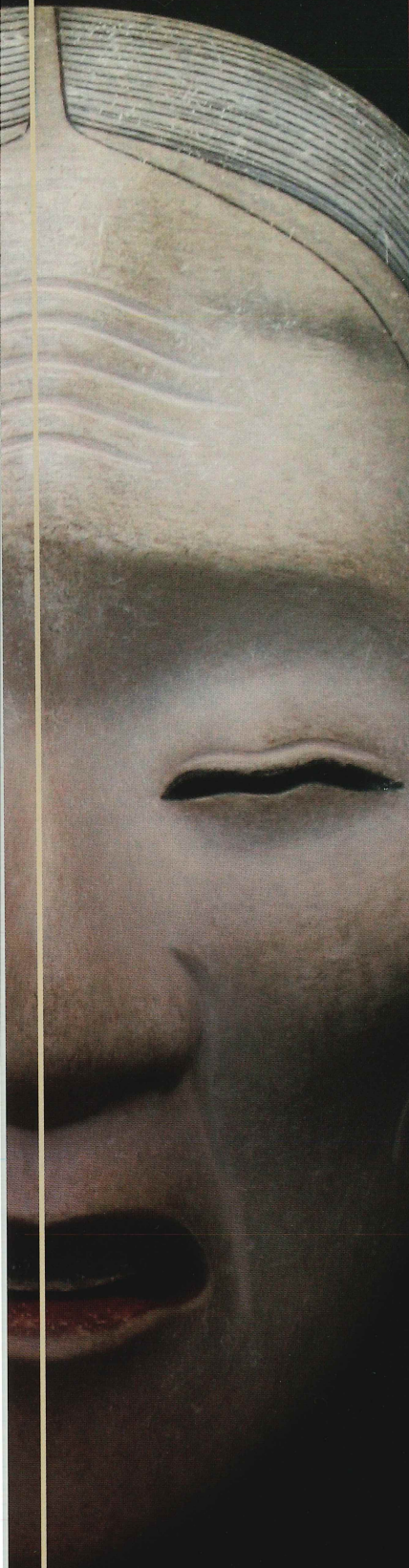


姥・新井達矢作



— 津村紀三子 没後50年メモリアル —

# 緑泉会 別会

RYOKUSENKAI Special Noh Performance

△ 津村紀三子プロフィール▽

1902年明石の生まれ、1974年逝去（71才）。幼少より謡曲を習い、

1939年女性初の観世流師範となり、1948年能楽協会会員となる。

その後、観世九皇会二世観世喜之師の門下となり、卒都婆小町、鸚鵡小町を披露し

新作能も手がける。金森敦子著「女流誕生」(法政大学出版局)がある。

Noh	Obasute	Tsumura Reijiro
能	姥捨	津村禮次郎
Kyogen	Kanenone	Nomura Mansaku
狂言	鐘の音	野村万作
Noh	Ataka	Ban Shintaro
能	安宅 <small>勸進帳 酌掛</small>	坂真太郎

令和6年

6月1日(土)

12時30分開演  
(11時45分開場)

## 国立能楽堂

# 緑泉会別会

**姨捨** 仲秋の名月を眺めようと、信濃国更科の姨捨山にやって来た都人達(ワキ・ワキツレ)の前に、里女(前シテ)が現れる。女は「わが心なくさめかねつ更科や姨捨山に照る月を見て」の古歌にゆかりの旧跡を教え、月の出に再び姿を現そうと約束して姿を消す。そこへ来た里人(間狂言)が、都人の求めに応じ、「棄老伝説」を語る。やがて月の出の刻となり、都人達が月を愛でていると、白衣の老女(後シテ)が現れ、勢至菩薩の仮の姿とされる月は、その満ち欠けによって世の無常を示す、などという仏説を語り、昔を懐かしんで舞を舞う。やがて東の空が白む頃、都人は下山し、老女は独り残されるのであった。能楽作品の中でも、『檜垣』『関寺小町』と並んで「三老女」と呼ばれる最奥の秘曲である。

**鐘の音** 主人は召使い(太郎冠者)に、鎌倉に行って「カネノネ」を聞いて来いと言いつける。召使は鎌倉に来て円覚寺、極楽寺などの寺々の鐘の音を聞いて回り、主人に報告する。ところが主人は裏めどころか怒りだす。さてその訳を聞いてみると「カネノネ」の真意を聞き誤った言葉違いの演目だが、鐘を撞いては聞きまわる太郎冠者の独り芝居で、眼前に鎌倉の情景が浮かび上がる。

**安宅** 頼朝の追求を逃れ、山伏に姿を変え都を落ち延びた義経(子方)主従一行は、加賀国・安宅の関にさしかかる。弁慶(シテ)は東大寺再建のための山伏だと偽るが、関守の富樫某(ワキ)がこれを怪しみ、一行を斬ろうとする。しかし一行が最期の祈禱をつとめると、一転して富樫は勸進帳を読めと迫る。弁慶はあり合わせの巻物を取り出し、勸進帳と偽って読み上げ、通行の許しを得るが、今度は強力に変装した義経が見咎められる。弁慶は主君を杖で打つ機転を効かせ、何とか関を通り抜ける。一行が関所から離れた所で休んでいると、先刻の非礼を詫びに、富樫が酒を持参する。弁慶は警戒心を解かず、酒宴に興を添える舞を舞い、一行を促して陸奥へと急ぐのであった。歌舞伎十八番『勸進帳』の原作。



安宅 坂真太郎

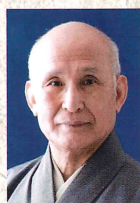
仕舞 賀茂風玉之段 地謡  
筒井陽子 新井麻衣子 墨敬子 中所宜夫 桑田貴志 石井寛人 金子仁智翔

能 姨捨 里女・老女 都人 同行者 里人 笛 小鼓 大鼓 太鼓 後見 地謡  
津村禮次郎 福王和幸 矢野昌平 村瀬 慧 石田幸雄 松田弘之 観世新九郎 安福光雄 小寺真佐人 観世喜之 駒瀬直也 鈴木啓吾 観世喜正 弘田裕一 中所宜夫 中森貫太 遠藤和久 奥川恒治 遠藤喜久 永島 充

狂言 鐘の音 太郎冠者 野村万作 主 岡 聡史 後見 野村遠太

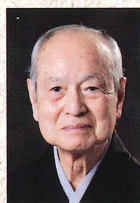
仕舞 隅田川 船辨慶キリ 地謡  
観世喜之 観世喜正 鈴木啓吾 小島英明 中森健之介 新井麻衣子

能 安宅 勸進帳 酌掛 武蔵坊辨慶 富樫某 源義経 義経ノ郎党 同 同 強力 従者 笛 小鼓 大鼓 後見 地謡  
坂真太郎 館田善博 坂 瞳子 中所宜夫 桑田貴志 石井寛人 金子仁智翔 長山耕三 奥川恒成 佐久間二郎 野村万作 飯田 豪 一噌隆之 大倉源次郎 柿原光博 弘田裕一 駒瀬直也 小島英明 奥川恒治 遠藤喜久 中森貫太 遠藤和久 永島 充 中森健之介 新井麻衣子 筒井陽子



## 津村禮次郎

1942年生まれ。シテ方観世流。観世流緑泉会代表。二世観世喜之師、津村紀三子に師事。重要無形文化財(総合認定)保持者 公益社団法人能楽協会会員 一般社団法人日本能楽会会員



## 野村万作

1931年生まれ。狂言方和泉流。重要無形文化財(各個認定)保持者(人間国宝) 文化功労者・日本芸術院会員 公益社団法人能楽協会会員 一般社団法人日本能楽会会員



## 坂真太郎

1972年生まれ。シテ方観世流。故・坂真次郎の長男。三世観世喜之師に師事。重要無形文化財(総合認定)保持者 公益社団法人能楽協会会員 一般社団法人日本能楽会会員

令和6年 6月1日(土) 12時30分開演 国立能楽堂

(11時45分開場)

151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷4-18-1 電話03(3423)1331(代)

チケット料金 (全席指定)

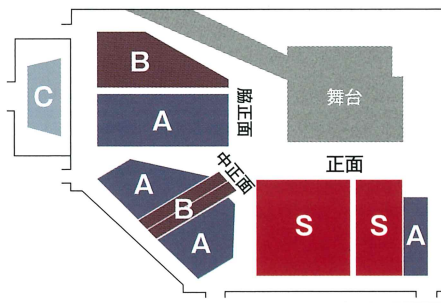
S席 12,000円 A席 10,000円 B席 8,000円 C席(一般) 5,000円 C席(学生) 3,000円

●チケットぴあ(Pコード: 524895) <http://ticket.pia.jp/pia/event.ds?eventCd=2404988>

●カンフェティ [0120-240-540 (平日10:00~18:00)] [https://www.confetti-web.com/detail.php?dir=ryokusenkai\\_2024](https://www.confetti-web.com/detail.php?dir=ryokusenkai_2024)



カンフェティ



お問合せ

観世流緑泉会 T/042(386)2131 F/042(386)2132 t-reijiro@jcom.home.ne.jp  
眞双会 T/03(3873)5404 F/03(3873)5635 info\_shinnoh@yahoo.co.jp

主催: 観世流緑泉会  
184-0005 東京都小金井市桜町2-7-18

能楽 仕舞 狂言 舞踊



足袋 承ります

## 大野屋總本店

〒104-0041 東京都中央区新富2-2-1  
☎03-3551-0896

FAX 03-3551-1263

※ご注文はFAXにてお願いいたします。

<http://www.onoyasohonten.jp/>

江戸の匠、応援しています。